

2016年7月定例自然観察会 報告書

(テーマ：波豆川沿いの道で千苺の夏を観る)

六甲山自然案内人の会 1班

1. 概要

- (1) 実施日時 2016年7月10日(日) 9:30~15:00 (天候 晴れ)
- (2) コース JR道場(集合)→水道局北神浄水事務所→東山橋
→広場(昼食)→千苺貯水所正門前駐車場→千苺橋・堰堤下
→千苺水源池・堰堤上→千苺貯水所正門前駐車場→JR道場(解散)

2. 実施

- (1) 参加者 ビジター53名+会員29名=82名
(参考)7月3日(日)自主研修会参加者 会員31名
- (2) 配布資料 コースMAP
- (3) 説明担当 ビジター対応：5グループ構成
会員対応：2グループ構成
- (4) 時間 JR道場(出発10:10)→広場で昼食(12:00~12:30)
→マルバアオダモについて説明及び8月定例観察会チラシ配布(~12:50)
→千苺水源池→千苺貯水所正門前駐車場で各G集合・人員確認(出発14:00)
→JR道場(解散15:00)

3. 観察記録

- (1) 観察植物
①草本

アキカラマツ、クララ、カワラマツバ
ヤブカンゾウ、イヌコモチナデシコ
ヘラオオバコ、オオバコ、オニドコロ
ヒメドコロ、タチドコロ、ヤマノイモ
ヘクソカズラ、ヤブマオ、メヤブマオ
ワレモコウ、ダイコンソウ、ガガイモ
トキリマメ、ホドイモ、クズ、ノササゲ、
ヌスビトハギ、センニンソウ

タケニグサ、ノキシノブ、イノモトソウ、アリマウマノズクサ、イヌホオズキ
メハジキ、ウシハコベ、ハエドクソウ、ナンテンハギ



- ②木本

エニシダ、ミヤマガマズミ、コウヤボウキ、マルバアオダモ、ハゼノキ、ヌルデ
ツクバネウツギ、コツクバネウツギ、ヒメコウゾ、ガンピ、ソヨゴ、ウワミズサクラ
サルトリイバラ、ヤマガシユウ、ノイバラ、ミヤコイバラ、テリハノイバラ、ヤマイバラ
アカメガシワ、アラカシ、エゴノキ、アオギリ、クマノミズキ、キハギ、イソノキ
ウツギ、アオツツラフジ、イタビカズラ、ネジキ、クリ、オニグルミ

テイカカズラ、カワラハンノキ、サネカズラ、アブラチャン、ダンコウバイ、シラキ
イブキシモツケ、ノブドウ、キレハノブドウ、エビヅル、サンカクヅル、ヤマブキ
ケケンポナシ、ニガキ、ツルマサキ、クマヤナギ、ツリバナ、イヌザンショウ
サンショウ、ナツフジ、フジ、エビガライチゴ、シロダモ、ムラサキシキブ、
ヤブムラサキ、

(2) 詳細説明植物

①エゴノキ

観察後、詳細説明を行った。

a. エゴノキの実

b. エゴノネコアシ： エゴノネコアシ
ブラムシによって形成される虫エイ。
ネコの足、バナナの房に似ている。

c. オトシブミ： エゴツルクビオトシブミによる揺籃（ようらん）。
葉を捲くが、地面に落とさない



②アリマウマノスズクサ

観察後、詳細説明を行った。

a. 花、葉： 花の構造、葉の形状

b. 実： 名前の由来となった馬に
とりつける鈴に似た実。

③マルバアオダモ

枝を水に浸すと、水が青くなることでアオダモ
の名前の由来となった。

実際に青くなるかを確認した。



4. 感想

(1) 夏場であり、観察距離が短く、平坦なコースで観察会を催した。

ビジターからは、ゆっくり観察できたと好評だった。

(2) 詳細説明の植物では、説明が終わった後多々質問されたり、再度植物を見直したりし
深く興味をもって観察してもらった。

(3) このコースは、ツル植物が多く、それらが観察者の目の高さであり、手にとって観察できた。
観察しやすいと好評であった。

(4) 暑い中の観察ではあったが、川の流れの音や、茂みからの涼風が心地よかった。

千苅貯水池の巨大な堰堤、貯水池からの放水がみられる景観は、夏の暑さを癒してくれた。



以上